21

高校生の月経の実態（その3）
――月経のイメージの変化について――

吉田幸代[1)]・壹岐さより[1)]・長友　舞[1)]・長津　恵[1)]・長鶴美佐子[1)]・髙橋由佳[2)]

key word：女子高校生，月経，ポジティブイメージ，ネガティブイメージ

Ⅰ．はじめに

月経のとらえ方は，月経時の対処行動やセルフケアに影響を及ぼすだけでなく，女性性・母性性の受容との関連や女性の健康，女性として自己の確立においても重要な要因であり[1)2)]，健康支援に関わる上で女性の月経のとらえ方を把握することは重要である。特に月経が整っていく過程にある女子高校生の健康支援においては，月経をどうとらえているかの把握はより重要となる。

これまでの研究では，月経のとらえ方と対処行動やセルフケアへの関連についての研究や報告[1)~4)]がいくつかみられる。しかしこれらの研究は月経が整った段階にある大学生や専門学校生を対象としたものであり，高校生に対する大規模調査は少ない。

そこで我々は女子高校生が抱く月経に対するイメージの特徴やその変化から，月経のとらえ方の一端を明らかにすることを試みた。

Ⅱ．研究目的

女子高校生の月経についてのイメージについて明らかにする。

Ⅲ．研究方法

1．調査期間：平成22年8月から平成22年12月

2．調査対象：九州A県全域の県立高校9校の女子生徒1～3年生3094名

内訳は普通科高校4校，専門学科（農業・商業・工業）5校

3．調査方法：集合法による自記式質問紙調査

4．測定用具：月経のイメージに関する尺度は，文献[5)]をもとに研究者が作成した月経に対するポジティブイメージ4項目，ネガティブイメージ5項目，その他1項目の10項目であり，回答方式はリッカードスケールによる「とても思う」「まあまあ思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4件法であり，得点が高いほど，その項目に対する思い（イメージ）が強いことを示す（表1）。

表1　月経のイメージの質問紙

	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	まったく思わない
a. 大人になるしるしなのでうれしい	4	3	2	1
b. めんどうくさいもの	4	3	2	1
c. しょうがないもの	4	3	2	1
d. 不潔・汚らしい	4	3	2	1
e. 大切なもの	4	3	2	1
f. 恥ずかしいもの	4	3	2	1
g. なくていいもの・邪魔なもの	4	3	2	1
h. 女の子だけ損だと思う	4	3	2	1
i. 女性として自然なもの	4	3	2	1
j. 女性にしかないものだから誇らしい	4	3	2	1

5．分析方法：統計処理ソフトSPSSVer.18を用いて，基本統計量の算出，一元配置分散分析を行い，有意差が見られた項目についてScheffe法による多重比較を行った。

6．倫理的配慮：高校の協力を得て，一斉に配布回収する集合調査を行った。

集合調査のため，生徒には口頭及び書面にて，研究者または養護教諭が，研究目的や内容，方法，倫理的配慮について説明した。具体的には，質問紙は無記名とし，調査への参加は自由であり，中断も可能，これにより迷惑がかかることは全くないことを高校生に理解しやすい表現で説明を行った。また，回答の自由を確保するために，質問紙は回答の有無にかかわらず，対象者が配布時の封筒に入れ封をしたのち，回収。質問紙の回答により同意を得たものとした。なお，本研究は宮崎県立看護大学倫理審査委員会の承認を得た。

Ⅳ．結　　果

1．対象者の概要：質問紙の配布数は3094名であり，このうち未回収11名，回答拒否（白紙提出）8名であった。有効回答数は3075名（99.4%）。内訳は1年生1079名，2年生998名，3年生998名であった。

2．高校生が持つ月経のイメージの実態

「とても思う」「まあまあ思う」と答えた割合についてみると，最も多かったものが，「面倒くさいもの」2909名（95.2%）「しょうがないもの」2856名（93.6%）「女性として自然なもの」2696名（88.6%）「大切なもの」2285名（74.9%）の順であった。一方少なかった項目は，「恥ずかしいもの」526名（17.3%）「女性として誇らしいもの」563名

1）宮崎県立看護大学　2）元 宮崎県立看護大学

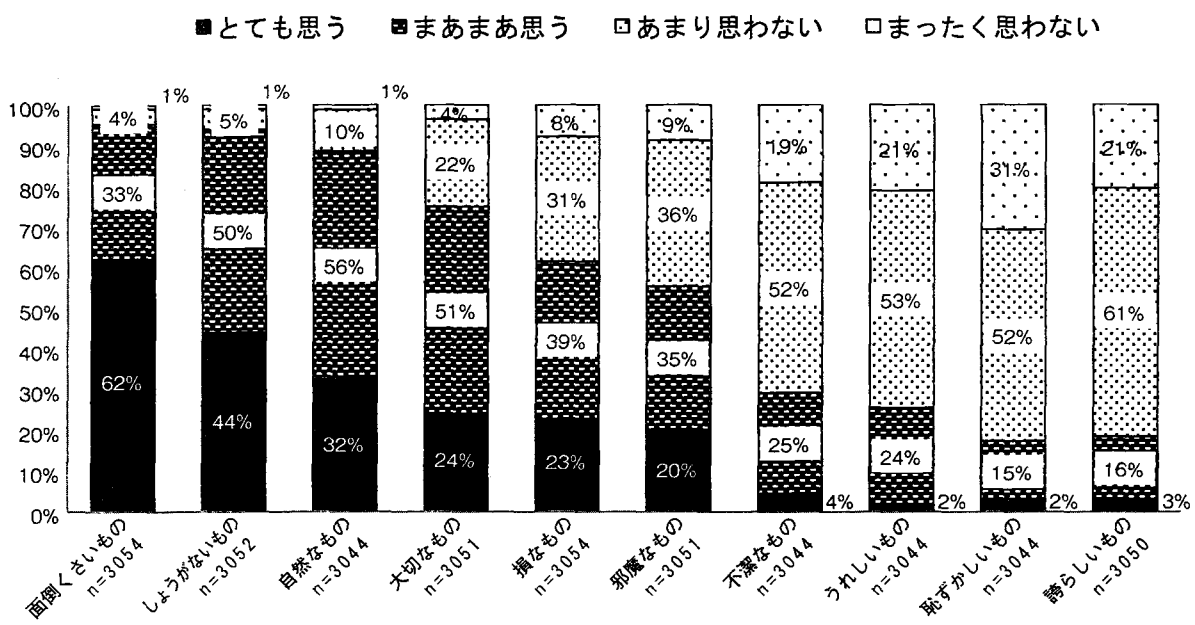

図1　ポジティブイメージとネガティブイメージ

表2　学年間による月経のイメージの変化

	1年生	2年生	3年生
	平均合成得点(SE)	平均合成得点(SE)	平均合成得点(SE)
大切なもの	2.81 (0.02)	2.98 (0.02)	3.08 (0.02)
女性として自然なもの	3.1 (0.02)	3.2 (0.02)	3.3 (0.02)
恥ずかしいもの	2.00 (0.022)	1.88 (0.024)	1.78 (0.023)
不潔・汚らしい	2.23 (0.023)	2.21 (0.024)	2.07 (0.025)
なくてもいいもの・邪魔なもの	2.72 (0.027)	2.68 (0.028)	2.60 (0.030)
めんどうくさいもの	3.51 (0.02)	3.58 (0.019)	3.59 (0.019)
しょうがないもの	3.30 (0.02)	3.37 (0.019)	3.42 (0.019)

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

(18.5%)「大人になるしるしなのでうれしい」776名(25.5%)「不潔・汚らしいもの」889名(29.2%)の順であった(図1)。

次に，月経をポジティブにとらえている項目（以下ポジティブ項目）を学年別に見たところ，「とても思う」「まあまあそう思う」が多かった項目は「女性として自然なもの」であり1年生84.6%，2年生89.8%，3年生は91.6%，また「大切なもの」は1年生67.4%，2年生77.1%，3年生は80.7%であった。一方，「大人になるしるしなのでうれしい」は1年生22.7%，2年生26.3%，3年生は27.6%，「女性にしかないものだから誇らしい」は1年生16.0%，2年生17.5%，3年生は22.0%であった。

また同様に「月経をネガティブにとらえている項目（以下ネガティブ項目）で「とても思う」「まあまあそう思う」が多かった項目は，「面倒くさいもの」1年生93.3%，2年生96.2%，3年生は96.4%であった。次いで「女の子だけ損だと思う」が1年生58.7%，2年生65.2%，3年生は60.9%，「なくていいもの・邪魔なもの」が1年生57.9%，2年生56.2%，3年は51.7%であった。一方少なかった項目は「不潔・汚らしいもの」は1年生32.4%，2年生27.7%，3年生は27.3%，「恥ずかしいもの」は1年生19.8%，2年生17.4%，3年生は14.4%であった。

3．学年間による月経のイメージの差（表2）

学年間で月経のとらえ方に差があるかどうかを見るために，4つの尺度の「とても思う」4点，「まあまあ思う」3点，「あまり思わない」2点，「まったく思わない」1点として学年ごとに10項目それぞれの平均合成得点を求め，一元配置分散分析および多重比較を行った。その結果，7項目で学年間に有意な差が見られた。

ポジティブ項目で，学年間に有意な差が見られた項目は「大切なもの」「女性として自然なもの」であった。「大切なもの」の平均得点は1年生2.81 ± 0.02点，2年生2.98 ± 0.02点，3年生3.08 ± 0.02点であり（F=33.546, p<0.001），Scheffe法による多重比較の結果，2年生は1年生（p<0.001）よりも，3年生は1年生（p<0.001）や2年生（p<0.001）よりも有意に平均点が高く，月経を「大切なもの」と思っていることが分かった。また「女性として自然なもの」でも，平均得点が1年生3.1 ± 0.02点，2年生3.2 ± 0.02点，3年生3.3 ± 0.02点であり（F=24.241, p<0.001），多重比較の結果，2年生は1年生（p<0.01）よりも，3年生は1年生（p<0.001）や2年生（p<0.01）よりも平均点が高く，月経を「女性として自然なもの」と思っていた。

ネガティブ項目で，学年間に有意な差が見られた項目は，「恥ずかしいもの」「不潔・汚らしいもの」「面倒くさいもの」「なくていいもの・邪魔なもの」の4項目であった。「恥ずかしいもの」の平均得点は1年生2.00 ± 0.022点，2年生1.88 ± 0.024点，3年生1.78 ± 0.023点であり（F=11.022,

p<0.001)，多重比較をしたところ，2年生は1年生（p<0.01）よりも，3年生は2年生（p<0.01）や1年生（p<0.001）よりも平均点が有意に低くなっていた。「不潔・汚らしいもの」でも，平均得点は1年生2.23 ± 0.023点，2年生2.21 ± 0.024点，3年生2.07 ± 0.025点であり（F=11.022, p<0.001），多重比較の結果，2年生は1年生よりも（p<0.01），3年生は1年生（p<0.001）よりも平均点が有意に低かった。また「なくていいもの・邪魔なもの」も平均得点は1年生2.72 ± 0.027点，2年生2.68 ± 0.028点，3年生2.60 ± 0.030点であり（F=4.368, p<0.05），多重比較の結果，3年生は1年生（p<0.05）よりも平均点が有意に低かった。これらから，高学年は低学年に比べ，月経を「恥ずかしいもの」「不潔・汚らしいもの」「なくていいもの・邪魔なもの」とは思っていなかった。

一方，「面倒くさいもの」の平均得点は1年生3.51 ± 0.02点，2年生3.58 ± 0.019点，3年生3.59 ± 0.019点であり（F=5.354, p<0.01），多重比較の結果，2年生は1年生（p<0.05）よりも，3年生は1年生（p<0.05）よりも平均点が有意に高く，高学年は低学年に比べ月経を「面倒くさいもの」と思っていた。

またその他の「しょうがないもの」も学年間に有意な差が見られ，1年生3.30 ± 0.02点，2年生3.37 ± 0.02点，3年生3.42 ± 0.02点であり（F=9.405, p<0.001），多重比較の結果，2年生は1年生（p<0.05）よりも，3年生は1年生（p<0.001）よりも平均点が高く，高学年は低学年に比べ月経を「しょうがないもの」と思っていた。

V．考　　察

1．高校生が持つ月経のイメージの特徴

今回の結果より，女子高校生の90％以上が月経に対して，「面倒くさいもの」，「しょうがないもの」ととらえており，同時に「女性として自然なもの」，「大切なもの」と思っているものも多くいることが分かった。松本ら[5]は，小学生から大学生1840名を対象に行った人格形成に月経がもたらす影響に関する研究において，「大切な生理現象」と「煩わしい」というイメージが高かったとしている。この結果は，月経のとらえ方が，アンビバレント（両価的）であることを示唆するものであり，今回の研究は高校生への大規模な調査によりそれを確認し，実証したものと考える。

ポジティブ項目において，どの学年も「大切なもの」「女性として自然なもの」と思う者が7～9割いる一方で，「大人になるしるしなのでうれしい」や「女性にしかないものだから誇らしい」と思う者は2～3割しかいないことがわかった。またネガティブ項目でも，「面倒くさいもの」が各学年9割以上，「女の子だけ損だと思う」「なくていいもの・邪魔なもの」は約6割いる一方，「恥ずかしいもの」「不潔・汚らしいもの」は約2～3割であった。これらより高校生の月経のとらえ方はアンビバレントであるが，その特徴として，「自然なもの」や「面倒くさいもの」といった柔らかな肯定や否定が多く，「誇らしい」や「不潔・汚らしいもの」といった強い肯定や否定は少ないことが考えられた。

2．学年間による月経のイメージの差

月経のイメージがどのように変化していくのか，その一端を明らかにすべく，本研究では学年の比較を行った。

学年間に有意な差が見られた7項目のうち，「面倒くさいもの」「しょうがないもの」「大切なもの」「女性として自然なもの」の4項目は，高学年の方が低学年に比べて，得点が高く，そう思うことが分かった。

一方，「恥ずかしいもの」「不潔・汚らしいもの」「なくていいもの・邪魔なもの」の3項目は，高学年の方が低学年に比べ，得点は低く，月経を「恥ずかしいもの」「不潔・汚らしいもの」「なくていいもの・邪魔なもの」とは思っていないことが分かった。

今回の学年比較の結果，高学年ほど，月経を「面倒くさいもの」「しょうがないもの」と思いながらも，「大切なもの」「女性として自然なもの」とポジティブにとらえるようになり，「恥ずかしいもの」「不潔・汚らしいもの」「なくていいもの・邪魔なもの」というネガティブなとらえ方が減少していくことが推察された。

松本[6]は「月経の周期的な繰り返しで，少女の『女性としての自己』，すなわち女性性が刺激され，生理学的な発達と社会文化的な要素の影響によって，心理学的に不安定な状態から安定した状態へと発達し，自我の確立や母性意識の発達が起こって精神的に成長する」と述べており，これが，今回の月経に対するとらえ方の学年間の差の背景にあると考える。

今回の結果は，女性の月経のとらえ方の変化を知る上では興味ある結果であると考える。しかし，今回は学年間の差からの推察であり，今後縦断的な調査により検証していくことが求められる。

Ⅵ．結　　論

女子高校生の90％以上が月経に対して「面倒くさいもの」，「しょうがないもの」と思う一方で，「女性として自然なもの」，「大切なもの」と思っていた。また高学年ほど，月経を「めんどうくさいもの」「しょうがないもの」と思いながらも，「大切なもの」「女性として自然なもの」とポジティブにとらえるようになり，「恥ずかしいもの」「不潔・汚らしいもの」「なくていいもの・邪魔なもの」というネガティブなとらえ方が減少していた。

引用文献

1）野田洋子：女子学生の月経の経験　第1報　月経の経験の経時的推移，日本女性心身医学学会，vol.8，No.1，p. 53-63，2003.

2）野田洋子：女子学生の月経の経験　第2報　月経の経験の関連要因，日本女性心身医学学会，vol.8，No.1，p. 64-78，2003.

3) 緒方妙子・宇野亜紀：女子学生の「月経の捉え方」と「月経痛及びセルフケア行動」との関連，九州看護福祉大学紀要，vol.11，No1，p. 3-9，2008-2009.
4) 伊藤綾夏・松浦絹子：女子大生の月経周辺期における心身の変化―ポジティブ及びネガティブな変化と月経イメージとの関連―，母性衛生，第 51 巻 1 号，p. 189-196，2010.
5) 松本清一：月経らくらく講座―もっと上手に付き合い，素敵に生きるために―，文光堂，p. 32，2004.
6) 松本清一：月経らくらく講座―もっと上手に付き合い，素敵に生きるために―，文光堂，p. 1-2，2004.
7) 野田洋子：女子学生の月経周辺期の変化の特徴，順天堂医療短期大学紀要，14 巻，p. 53-63，2003.
8) 甲斐村美智子：女子学生の月経の経験と自己肯定感　初経教育およびその後の月経の経験と自己肯定感との関連，日本女性心身医学会雑誌，vol.14，No3，p. 277-284，2010.